

[学会] 第1000回 千葉医学会例会
第20回 歯科口腔外科例会

日時:平成11年11月13日(土)10:00より

場所:千葉大学医学部附属病院 第2,3講堂

1. *Helicobacter pylori* に対する増殖阻害因子

杉野彰行, 加藤治郎, 丹沢秀樹

(千大)

三宅眞実, 野田公俊(同・2微生物)

食品添加剤として使用される抗酸化剤による *Helicobacter pylori* (H.p) の増殖抑制効果と殺菌効果を中心に (pH 2) 条件下で比較検討した。その結果中性条件下で 0.1mM の亜硫酸水素塩 (BS) は H.p. の増殖に全く影響を及ぼさなかったが, 1.0mM では増殖を完全に抑制した。胃の条件に近づける為に, Urea を添加した酸性 (pH 2) 条件下で BS の作用を検討した。0.5mM BS, 0.5mM Ferulic acid を添加すると, H.p. の生存は見られなくなり, BS, Ferulic acid は酸性条件下では, その殺菌作用が増強することがわかった。

2. 口腔癌で高頻度に見られた第8染色体短腕欠損と近傍に存在する *FEZ1* 遺伝子の発現状況

小野可苗, 鶴澤一弘, 丹沢秀樹

(千大)

口腔癌において第8番染色体短腕上に2カ所の共通欠失 (8p22, 8p12) を同定し, これらの近傍に新規癌抑制遺伝子が存在する可能性を見出した。一つの候補在位 8p22上には食道癌で高頻度に異常を起こしている *FEZ1* 遺伝子が同定されており, 今回, 口腔癌において, RT-PCR 法にて発現状況を検討したところ, 高頻度の発現の変異および減少が認められ, 本遺伝子が有力な癌抑制遺伝子であることが考えられた。

3. 口腔扁平上皮癌における第一番染色体の欠失状況と関連遺伝子異常の検索

荒木大介, 鶴澤一弘, 丹沢秀樹

(千大)

当科扁平上皮癌患者41例中に対し, 第1番染色体の染色体異常を検索した。結果, 1p36.1および1p36.3に30%以上のヘテロ接合性の消失を認め, 共通欠失領域と考えられた。そのため少なくとも2つの癌抑制遺伝子の1つである p73遺伝子について PCR-SSCP 法にて変異の検索を行ったが明らかなヒト口腔癌への関

与は認められなかった。

4. 歯肉癌で高頻度に検出された第20染色体上の Loss of heterozygosity

今井ファビアナ利花, 鶴澤一弘

丹沢秀樹 (千大)

第20染色体は他癌においてヘテロ結合性消失 (LOH) の報告は少ない。本研究は第20染色体に於いて, 口腔癌の発癌に関与する未知癌抑制遺伝子領域の有無を検索する目的で同染色体上の LOH が認められた二カ所の共通欠失領域, 染色体座位 20q12-13.1 (RPN 2) 及び染色体座位 20p11.2 (D20S48) を同定した。また, Fisher's exact test で 20q-LOH は口腔内他部位に比べ歯肉癌に有意が認められた。

5. 口腔癌における第10染色体の Loss of heterozygosity のと癌抑制遺伝子

山下泰弘, 宮川昌久, 鶴澤一弘

丹沢秀樹 (千大)

第10番染色体における LOH の報告例は, 脳腫瘍, 膀胱癌, 肺癌, 膵臓癌, 前立腺癌などで14~74%の異常が報告されている。第10番染色体での遺伝子異常状況を, 1995年から1997年に当科を訪れた口腔内扁平上皮癌患者38症例に対して検索した。結果: 63.2%の症例に第10番染色体の少なくとも1つの領域の LOH を認めた。MI は36.8%に認められた。今回の我々の検索における63.2%という頻度は高く, 口腔癌の発生に関する第10番染色体異常の重要性を示唆していると考えられた。

6. mel-18 結合タンパク, Mph-2 の機能と構造

山木 誠, 丹沢秀樹 (千大)

赤坂 武, 古関明彦

(同・発生物)

ポリコム遺伝子群は, ショウジョウバエにおいてホメオボックス遺伝子群の発現調節を介し, 前後軸の形成に重要な遺伝子群として解析された。mel-18欠損マウスを作製した結果, 生体内でショウジョウバエ Pc-G と同様の機能を有していることが示された。Pc-G